

上北沢ホームと日大生との協働～地域のなかでの3年間の取り組み～

世田谷区立特別養護老人ホーム上北沢ホーム 伊藤誉敏

日本大学文理学部社会福祉コース

赤城愛美 浅田敏也

<報告内容>

上北沢ホームと日本大学文理学部社会福祉コースの学生が協働して行ってきた3年間の取り組みについての報告を行う。ホーム職員や日大生の「ご利用者様に楽しんでいただくことをしたい」という共通した思いから始まった様々な活動やボランティアが個人的なものから組織的なものへと変化し、ホームと学生側それぞれにチームが組織された。そのチームを中心として、両者がどのように連携し、さらには地域へと活動の幅を広げてきたのかをこれまでの活動の経緯を通して報告を行う。

<活動経過>

上北沢ホームと日本大学文理学部社会福祉コースとは、元々社会福祉士実習や演習授業等で、交流があった。

協働活動としてのきっかけは、

2009年夏 上北沢ホーム納涼祭で日大生が車いす体験コーナー実施に協力

秋 ホーム入所者が、日大生の案内で大学の学園祭を訪問

2010年春 大学の校内で、ホーム入所者と日大生とがお花見

日大ボランティアグループ「日大パレット」結成

上北沢ホーム「チーム車いす体験してみません科」結成

以後、納涼祭と学園祭での車いす体験コーナーの協働や、学園祭や花見時の入所者の大学訪問は恒例行事となり、学生とホーム入所者・職員が行ったり来たりの交流を重ねている。また、これらの行事は入所者と学生との交流の場ともなっている。

<地域との関わり>

これらの交流の中で、地域住民との関わりや地域活動との関係が生まれている。例えば、子どもたちとの定期的交流や、近くにある「せたがや共生のいえ」での活動がある。学生と入所者・職員から始まった活動が、日大及びホームから地域へと活動の幅が広がりつつある。

<考察>

この3年間を通して行ってきた活動が、上北沢ホームと日大生にとってどのような意義を持つのかをそれぞれの立場から分析してみたい。また、今後の活動の継続や拡大をどのように行っていくのかという点について考察し、さらには、これらの活動をどのように地域の方々へ周知し、参加を推進していくのかといった地域への展開という観点から今後の課題についても考察する。